



横瀬神楽

みやこ町 横瀬神楽講

赤幡神楽の流れをくむ神楽で、自然の恵みを願い「雨乞いには欠かせない」神楽としても親しまれています。戦後、一時期途絶えましたが地元の有志により復活。昭和50年に保存会が発足し、舞い手も観衆も楽しめる神楽を目指し、地域と共にある神楽として広く親しまれています。本社は若宮八幡宮。



光富神楽

みやこ町 光富保存会

光富神楽は明治35年前後に、赤幡神楽を伝承して始まったとされています。途中、講員の減少により中断が2度ありましたが、昭和56年頃、有志により神楽保存会が結成されました。今では、本社である徳矢神社の春祭で奉納しているほか、様々なイベントに参加し、幅広く活動しています。



燈畑神楽

みやこ町 燈畑神楽保存会

大正12年、大山祇神社に新たな神輿が奉納されたのを機に、松丸神楽の中川氏を招いて習得したのが始まりです。戦中・戦後の2度中断しましたが、昭和55年燈畑小学校の百周年の際、行事の一環として舞ったことをきっかけに、燈畑神楽保存会が復活。激しい動きが特徴の舞となっています。



上伊良原神楽

みやこ町 上伊良原神楽保存会

明治29年、当時の上伊良原村の村内・中村集落の若者により赤幡流直伝とされる、松丸神楽(築上町)を習得し、高木神社奏楽社として発足したのが始まりとされています。過疎化により講員が減少したため、保存会を結成し再出発。現在は活発な活動を続けています。本社は高木神社。



上高屋神楽

みやこ町 上高屋神楽保存会

大正14年、蔵持神楽(みやこ町)の泉氏から奏楽を習ったのが始まりとされています。その後、昭和2年に上高屋神楽講が発足しました。戦争により、講員が減少しましたが、30年ほど前から小学生に神楽を伝授するようになり、平成5年には上高屋神楽保存会に改称しました。基本を忠実に守ることにより、伝統的な神楽を舞っています。本社は橋八幡神社。

神楽を觀賞される皆さまへ

神楽は地元の氏子さんが五穀豊穡に感謝し家内安全を祈って奉納するものです。見学に当たっては迷惑がかからないように配慮をお願いします。また、写真を撮影する際は、フラッシュの使用・過度なシャッター音や視界を遮るなどの行為は、他のお客さまのご迷惑になりますので、ご遠慮願います。三脚を使った撮影は、他の見学者のご迷惑にならないようにお願いします。



面



演じる役にあわせて鬼、姫、爺、婆など、特徴のある表情豊かな面がある。面にはそれぞれに神名がつけられており、面をつけることで、霊的な力が宿り、舞う人を守ってくれるという考えがある。面は地元で彫られたものがかなりあり、基本的に能面などを参考に地元の有志が打った(製作)と考えられる。先人より受け継がれている古面を所有する団体も多く、古いものは江戸期まで遡る。

